

特集

三宅徳嘉教授旧蔵書



三宅徳嘉教授旧蔵書中の圧巻  
幕末・明治維新期のフランス語教本類

CONTENTS

三宅徳嘉教授旧蔵書

VOICE

LIBRARY NAVIGATOR

図書館さんぽ 第6回「旅の図書館」

新収資料紹介

INFORMATION

三宅徳嘉先生（1917-2003）が亡くなられてから、すでに2年半が経つ。2003年の夏、先生が闘病に最後の力を注いでおられたとき、当時東京都立大学教授の岡田真知夫君と立教大学教授の細川哲士君から声をかけられ、わたしも自分のパソコンを持参して池袋の細川研究室に何日か通い、三宅蔵書の洋書のみ約3500冊のリスト作りに参加した。そのリストにもとづいて丸善が洋書のみを一括購入し、評価して売りに出した。一度は琉球大学が購入の希望を示したものの、運搬や殺虫消毒の必要、その他諸般の事情から諦めたので、中世文学、言語学、17-18世紀フランス文学の宝庫とも言うべきこの蔵書の購入が本学で可能になった。購入と整理完了に至るまでの、三代にわたる図書館長、長崎健、川口紘明、古城利明各氏のご配慮と、佐藤善治氏をはじめとする図書館関係者のご尽力に、心から感謝申し上げたい。

三宅先生の父上は大審院の判事で、確か兄上も法律家になった。「文学を選んだのは、堅苦しい法律家の家で育ったから、反発もあってね」と話してくれたことがある。学習院育ちで、旧制高等科から東京大学フランス文学科に進み、大学院特別研究生となった。戦後はデカルトの研究やコンディヤック、ドルバックなどの翻訳を進めながら、学習院高等科教授と同大学文学部助教授を経て、1951年から東京都立大学の助教授になり、同年秋、戦後第2回のフランス政府招聘給費留学生として渡仏した。このブルシエ試験には、マチネ・ポエティックのメンバー、中村真一郎や福永武彦らも受験したが、文学部門の合格者は三宅先生一人であった。ちなみに戦後第1回に当たる前年の文学ブルシエは森有正であり、ストロウスキーの名著『フランスの智慧』は森有正・土居寛之共訳で出版されているが、森が1年先にフランスに行ってしまったので、実際には土居寛之と三宅先生とで翻訳したと言われている。在仏2年半のあいだ、先生は、中世文学のリュシアン・フーレや言語学のマルセル・コーエンに師事し、1954年に帰国した。帰国後、『スタンダード仏和辞典』をはじめ、後年の『ラルース仏和辞典』にいたるまで数多くの辞書編集に従事し、A・マルチネの言語学を翻訳・紹介するとともに中世文学の研究を深め、デカルトの新訳や初訳も試みて、若き日の伝説的秀才の誉にわが国最高の碩学という名声を加

えて、学界の尊敬を一身に集めた。

三宅先生は、1978年3月に東京都立大学を去り4月から学習院大学教授となって10年間勤められ、1988年3月に定年退職された。専任教員として教鞭をとられた二つの大学に限らず、東京大学、京都大学、慶応義塾大学などの大学院に招かれて長年講師を勤められたので、先生の警咳に接して師と仰ぐ学者・研究者は全国に数多く広がって活躍している。

このたび図書館で整理を完了した三宅蔵書は、破損本と重複本を除いて約2800冊となった。そのうち、ヨーロッパ中世文学関係の文献が約1300冊あって、中世フランス語のオイル語とオック語のアンソロジーや研究書が揃っているだけでなく、Champion社刊行の「中世文学叢書」はほぼ全巻を集め、有名な『ロランの歌』や『薔薇物語』、フランソワ・ヴィヨンの詩などについては、基本的なエディションと研究書を網羅している。13世紀のオック語で書かれた『フラメンカ』のすべてのエディションと研究書を蒐集している点でも大変珍しいコレクションと言えるだろう。

また一般言語学と現代フランス語学、さらに17-18世紀フランス古典文学と哲学（特にデカルトとコンディヤックの周辺）などの、合計約1400冊も、そこに含まれているさまざまな辞書類とともに、今後の研究者にとってはきわめて貴重な文献となるに違いない。ただし、三宅先生はいわゆる「ビブリオフィル」ではなく、研究者として必要なもの



本蔵書中最古の図書（1630年刊）

が揃い、中味が読めればよいとの考え方から、同じ本が2冊あれば安価なほうを購入されたと推察されるので、残念ながら破損本でないにしても保存に神経を使わねばならない古書が多いわけである。

圧巻と言うべきは、幕末から明治初期に使用された仏和辞書や文法書の類、10数点である。長崎から江戸に出た中江篤介（兆民）が驚いたと言う村上英俊の『仏語明要』（1864年刊行）は流石に入手していないが、三宅先生は、江戸幕府の「蕃書調所」が「洋書調所」に改称した1862年版の『ノエル・シャブサル新文法』（第5版）を見つけ出している。これは青いボール紙の日本製カヴァーで装丁されているが、中味はパリで出版された原書である。1823年に初版が出て大成功を収め、その後フランスのコレージュや大学で採用され一世を風靡した教科書だから、フロベールやマクシム・デュ・カンの世代以降、しばらくはみんなこの本で国語文法を習ったはずである。江戸には、1861年版もすでに存在したらしく、この版を柳河春三が要約・簡略化して『法郎西文典』（上・下）として慶応2（1866）年に刊行した。おそらくは鳥の羽のペン字筆記体で書いた、手刷り木版の楮和紙仮綴本である。先生はそれも発見して、両版の異同を比較対照し、原書の1862年版に鉛筆でその違いを書き込んでおられる。



異同を確認した三宅教授自筆の書き込みが見られる

「洋書調所」は1863年には「開成所」と名を改め、やがて明治維新後、「開成学校」を経て「東京帝国大学」となるわけだが、1866年以降「開成所」がフランス語の教科書として使用したのは、この『法郎西文典』であった。また中江篤介が2年半の滞仏遊学を終えて帰国したのち、明治7（1874）年「仏学塾」を開校したとき、フランス語教科書として使ったのも、『ノエル・シャブサル新文法』である。『中江兆民全集第17巻』（岩波書店）によれば、明治15年9月に改正された「仏学塾規則」にも、文法には『ノエル小文典』を使用することが記されている。後年、この文法書は、大杉栄や石川

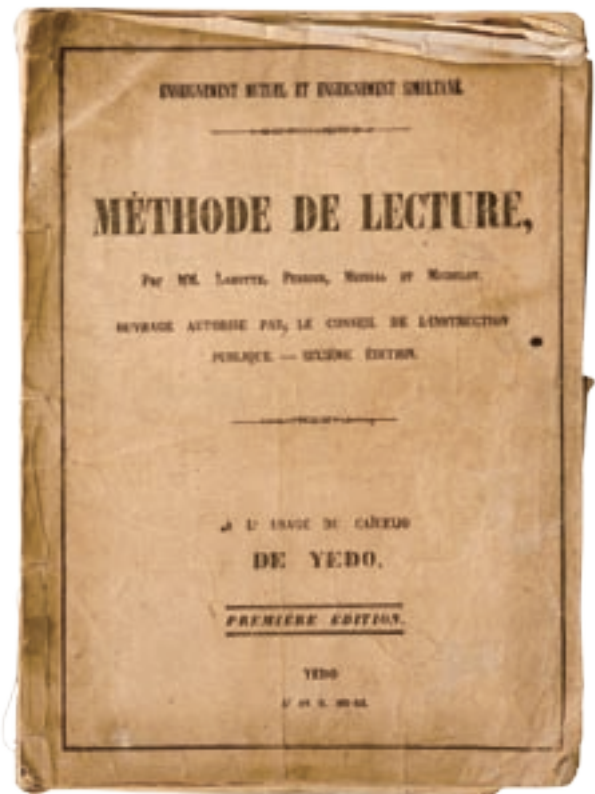


「開成学校」の蔵書印が見られる

三四郎も手にしたことがあるのかもしれない。

三宅蔵書には、記念すべき「開成所蔵書」印の押されたものもあり、1867年に「開成所」が独自に発行した筆記体習字教科書『法語階梯』や発音練習と購読テキスト『MÉTHODE DE LECTURE』、桂川甫策校閲の単語集、『法蘭西文典字類全』（2300語）、さらに、国文学の鈴木俊幸教授にも見ていただいたところ、明治初期の最高度の木版技術を示す優雅な装丁による文法書や単語集も何点が含まれている。これら貴重な書物をひも解くとき、洋学事始の時代の先人の苦勞が偲ばれ、いまのわれわれとは雲泥の差の努力に、頭が下がる思いである。

三宅徳嘉先生はいつだったか、都立大学時代を思い出されて「きみたちの頃だね、都立の花は」とおっしゃった。これは、わたしを含め仲間たちが大喜びしそうな感想であるが、わたしたち、いや少なくともわたしは、いまもなお先生が蒔かれた種を咲かすこともできなければ、ましてや果実を実らせることもできなかった。先生が残され、いまや本学所蔵となった貴重な資料を用いて、やがて若い世代が立派な果実を実らせてくれることを心から祈っている。



『MÉTHODE DE LECTURE』

## Voice

デトレフス H. ヨアヒム（文学部教授）

For many years I have been using the service of Chuo-University's central library and especially its reference section. The work I have been undertaking in recent years owes a great debt of gratitude to this institution and its fantastically competent, efficient and enormously kind individuals. I pursued my interests in western European aesthetic theory from Renaissance to the Romantic era. This is a rather vast field where bibliographical materials are usually very old, rare and difficult to locate. I am immensely grateful to all members of this amirable staff for the generosity of time and professionalism they spent to trace the way so many times to much needed (and often rather obscure) sources in Japanese or international libraries.

With some mixed feelings I remember working conditions at my first university appointment in Italy, probably the most beautiful and arguably the most disorganized country of the world. I don't remember well if the sad state of Italian librarian services has been the main reason for my decision to work here in Japan. What I do record is that without the support of this university many things could not have been done. I remain keenly aware of how much debt I have accumulated over years here at the Chuo-University. Working with you has been and still is both a privilege and a pleasure.

Dr. Hans Joachim Dethlefs  
Prof. of German language and culture

# Library Navigator

## Library Navigator -電子ジャーナル検索-

### 1. はじめに

探したい雑誌・新聞のタイトルがわかっている場合、まずはCHOIS（中央大学図書館蔵書検索システム）で検索してください。CHOISでは学内に所蔵されている冊子体の雑誌・新聞が検索できます。もしCHOISで見つからなかった場合、それが洋雑誌・新聞の場合は電子ジャーナルに収録されている可能性があります。以下の「電子ジャーナル検索」で調べてください。

### 2. 「電子ジャーナル検索」とは

中央大学図書館で利用可能な電子ジャーナル(洋雑誌・新聞)を検索することができます。検索対象となる電子ジャーナルはフルテキストが閲覧可能な雑誌のみにしております。

### 3. 利用方法

#### (1) 接続方法

中央大学の学内に設置されているインターネットに接続できるパソコンであれば利用できます。図書館内においては、外部データベース情報検索用端末からご利用ください。

#### (2) 接続の実際

- ① 中央大学図書館ホームページの画面左側のメニューにある「データベース・電子ジャーナル」をクリック。
- ② 「電子ジャーナル」の項目をクリック。
- ③ 電子ジャーナル検索の紹介ページ下段のボタンをクリック。

### 4. 検索の実際

米国の日刊経済紙「The Wall Street Journal」を検索してみましょう。

リストはタイトルのアルファベット順に並んでいます。

画面右上の入力ボックスにタイトルを入力します。入力が完了したら「Search」ボタンをクリックします。

入力したキーワードをタイトルに含む資料が以下のように表示されます。

タイトル

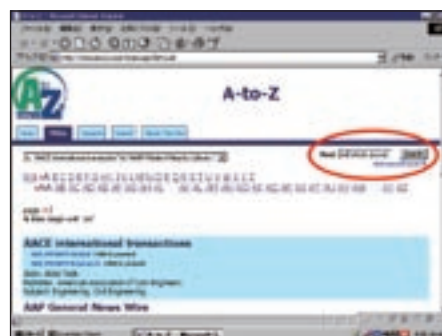
データベース名 収録範囲（フルテキストが閲覧できる年次）

ISSN:国際標準逐次刊行物番号（冊子体版） Online ISSN:同オンライン版

Publisher:出版社

Subject:雑誌分類

「The Wall Street Journal」はABI/INFORM Global というデータベースに1984年以降最新号まで収録されていることがわかります。タイトル下部にあるリンク先（ここではABI/INFORM Global）をクリックすると、タイトルの本文を閲覧することができます。ここから先の閲覧方法は、タイトルを提供しているデータベースにより異なります。



### 5. 検索のコツ

- ① 雑誌・新聞のタイトルから探してください。論文名や著者名では探せません。
- ② 主題分野別のタイトルリストを確認することができます。
- ③ 検索ボックスの下にある「Advanced search」をクリックすると詳細検索が可能です。ISSN:国際標準逐次刊行物番号がわかっている場合はISSNから検索することもできます。

# 旅の図書館

**住所**：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 第2鉄鋼ビル地下1階  
**TEL**：03-3214-6051

**利用資格**：所蔵資料を閲覧される方は無条件に利用可

**開館時間**：月～金曜日 10:00～17:30

**休館日**：土曜日・日曜日・祝日・年末年始・棚卸し期間

**サービス**：閲覧・複写・レファレンス

**蔵書数**：2万8000冊（和書25,000冊 洋書3,000冊）雑誌約150タイトル

**複写関連**：コピー（1枚30円、カラーコピー1枚100円）

**交通アクセス**：\* JR東京駅八重洲口北口から徒歩2分

\* 地下鉄東西線大手町駅：B10出口（鉄鋼ビル出口）から徒歩2分

\* 地下鉄東西線・銀座日本橋駅：A3出口から徒歩3分

\* 地下鉄半蔵門線三越前駅：B2出口から徒歩3分

**座席数**：座席数30席 蔵書検索機1台 デジタル画像用端末機 1台



「旅の図書館」は1978年10月、観光文化の振興を願い、財団法人日本交通公社によって開設されました。

日本各地、世界各国の旅行・観光に関する図書、雑誌、ガイドブック、地図、時刻表や資料類を2万8千冊以上所蔵しています。日本国内の資料は都道府県別に、海外の資料は国別に配架されています。スタッフの独特なアイデアから、整理用収納ボックスを書架の国別見出しとしている点が特徴的です。その見出しボックスの中には、日本の書店で購入することのできない現地の地図、観光パンフレットや新聞の切り抜きが丁寧にファイルされています。毎日、観光・旅行に関する新聞記事をクリッピングし、収納しているファイルボックスは、旅好きスタッフによる手作りの温かさが伝わってきます。

図書はガイドブックに限らず、地域の文化を紹介した資料や、紀行文もあります。一般旅行者が執筆した紀行文も寄贈され、身近な現地情報として利用されています。旅行のプランニングをする利用者ばかりではなく、観光に関する大学紀要も所蔵しているため、卒業論文を作成する学生の姿も見かけます。

雑誌は、「時刻表」、「観光文化」、「トラベルジャーナル」等のバックナンバーの他、「旅」（創刊号～昭和40年12月）、「ツーリスト」（創刊号～昭和18年4月号迄）のデジタル画像を館内で閲覧できます。また、日本に乗り入れしている各国航空会社の機内誌、企業のPR誌や、外国で定評のある「ミシュラン」、「ロンリープラネット」などの洋書ガイドブックも豊富に揃えられていて、充実した専門図書館といえます。



乗り物に関する資料も多数所蔵しているため、旅好きの方ばかりでなく、鉄道、バス、船、飛行機好きの方にもおすすめの図書館です。心に残る旅を経験してほしいという館長の想いが詰まった「旅の図書館」は、各地の情報を一度に閲覧でき、東京にいながら世界や日本各地を身近に感じることができます。

今年の夏休み旅行は、「旅の図書館」に足を運び、今までとは一味違った旅のプランを立ててみてはいかがでしょうか。

# 新収資料紹介

①教職員著作目録 2006.2 - 2006.4 ( )は所属学部等

著者名	書名	出版社	配置場所	請求記号
ノエル・シャトレ 相田 淑子 (法 学 部)	著 訳 最期の教え	青土社	開架・中央	953/C36
猪狩 廣史 浅岡 夢二 (法 学 部)	著 執筆協力 フランス語のスタートライン (Starting Line-やさしく詳しい解説:しっかり身に付く文法:話したくなる表現-)	三修社	開架	850/I23
今村 都南雄(法 学 部) 武藤 博己	著 ホーンブック 基礎行政学	北樹出版	開架・中央	317.1/I44
ツヴェタン・トドロフ 小野 潮 (文 学 部)	著 訳 越境者の思想 トドロフ、自身を語る	法政大学出版局	中央	950.2/To18
小山田 義文(名 誉 教 授)	著 ゴッホ千日の光芒	三元社	開架	723.359/G57/ O95
河野 正男 (経 済 学 部)	編著 環境会計の構築と国際的展開	森山書店	開架	336.9/Ka96
笠井 修 (法 科 大 学 院) 鹿野 菜穂子	著 はじめての契約法 第2版	有斐閣	開架・中央	324.52/Ka72
金井 貴嗣 (法 学 部) 川浜 昇	編 独占禁止法 第2版	弘文堂	開架・中央	335.57/Ka44
金原 左門 (名 誉 教 授)	著 日本近代のサブ・リーダー 歴史をつくる闘い	日本経済評論社	開架・中央	210.6/Ki41
工藤 和久 (法 学 部)	著 法学部生のための経済学入門	東洋経済新報社	開架・中央	331/Ku17
九里 徳泰 (研究開発機構)	著 冒険家になるには (なるにはBOOKS 4)	ペリかん社	開架	336.29/N53
工藤 達朗 (法 科 大 学 院) 畑尻 剛 (法 学 部)	著 憲法 第3版	不磨書房 信山社(発売)	開架・中央	323.14/Ku17
眞田 芳憲 (法 学 部)	著 日本人のためのイスラーム入門	佼成出版社	開架・中央	228/Sa61
坂田 聡 (文 学 部)	著 苗字と名前の歴史 (歴史文化ライブラリー 211)	吉川弘文館	開架・中央	288.1/Sa37
荒木 隆司 (理 事 長) 鈴木 敏文 (理 事 長)	他著 監修 経営革新 Vol.2	中央大学出版部	開架・中央	335/C66
鈴木 敏文 (理 事 長)	他述 トップが語る新たな成長モデル 日本経済新聞社編	日本経済新聞社	開架・市ヶ谷	335/N77
サミュエル・ジョンソン 諏訪部 仁 (法 学 部)	著 訳 スコットランド西方諸島の旅 (中央大学人文科学研究所翻訳叢書 1)	中央大学出版部	開架・中央	935/J64
鈴木 敏文 (理 事 長) 松岡 眞宏	著 ほか述 なぜ買わないのかなぜ買うのか	講談社	開架	675.2/Su96
関野 満夫 (経 済 学 部)	著 地方財政論	青木書店	開架	349.21/Se37
立石 二六 (法 学 部)	著 刑法総論 第2版	成文堂	開架・市ヶ谷	326.1/Ta94
田村 威文 (経 済 学 部)	著 わが国における会計と税務の関係	清文社	開架	336.9/Ta82
滝田 賢治 (法 学 部)	編著 東アジア共同体への道 中央大学政策文化総合研究所研究叢書 3	中央大学出版部	開架・中央	302.1/C66
塚本 康彦 (名 誉 教 授)	著 実感文学論 小さくとも私の杯で	至文堂	開架	910.26/Ts54
都筑 学 (文 学 部) 奥原 しんこ	文 絵 あたたかな気持ちのあるところ いま、希望について	PHPエディタ ーズ・グループ	開架	913.6/Ts99
中村 達也 (商 学 部) ウノカマキリ	著 絵 お金とくらしを考える本 1 お金ってなんだろう	岩崎書店	中央	338/O44
ヘンリエット・ヘルツ 野口 薫 (文 学 部)	著 編訳 ヘルリン・サロン ヘンリエット・ヘルツ回想録	中央大学出版部	開架・中央	940.2/H53
林 光洋 (経 済 学 部)	著 SMEs, subcontracting and economic development in Indonesia With reference to Japan's experience	国際協力出版会	中央	338.7/H41
藤井 健三 (名 誉 教 授)	著 アメリカの英語 語法と発音	南雲堂	開架	835/F57
藤本 哲也 (法 学 部)	著 刑事政策概論 全訂第5版	青林書院	開架・中央	326.3/F62
本間 修平 (法 学 部)	著 諸心得留 諸心得問合挨拶留 諸問問合書 諸問問合御附札濟之寫 (問 答集 8)	創文社	中央	322.15/I75
松野 良一 (総合政策学部) 高谷 邦彦ほか	編著 執筆 市民メディア活動 現場からの報告	中央大学出版部	開架・中央	361.54/Ma84
丸山 秀平 (法 学 部) 野村 修也 (法 科 大 学 院)	著 ケースブック会社法 第2版 (弘文堂ケースブックシリーズ)	弘文堂	開架・中央	325.2/Ma59
武藤 脩二 (文 学 部) 入子 文子	編著 資格のアメリカン・ルネサンス	世界思想社	開架・中央	930.29/Mu93
森松 健介 (法 学 部)	著 テキストたちの交響詩 トマス・ハーディ14の長編小説	中央大学出版部	開架・中央	930.2/H32/ Mo54
安野 智子 (文 学 部)	著 重層的な世論形成過程 メディア・ネットワーク・公共性	東京大学出版会	開架・中央	361.54/Y65
矢島 正見 (文 学 部)	編著 戦後日本女装・同性愛研究 中央大学社会科学研究所研究叢書 16	中央大学出版部	中央	367.6/Y16
総合研究開発機構 横田 洋三 (法 科 大 学 院)	編 グローバル・ガバナンス 「新たな脅威」と国連・アメリカ (NIRAチャレンジ・ブックス)	日本経済評論社	開架・中央	319/So28
横田 洋三 (法 科 大 学 院)	編著 新国際機構論 上・下	国際書院	開架・中央	329.3/Y78
スティーン・R. リード (総合政策学部)	著 比較政治学 (MINERVA政治学叢書 4)	ミネルヴァ書房	開架	311/R23
若林 茂則 (文 学 部) 白畑 知彦	編著 著 第二言語習得研究入門 生成文法からのアプローチ	新曜社	開架・中央	807/W17
ラグラム・ラジャン、ルイジ ジッガレス 堀内 昭義 (総合政策学部)	著 他 訳 セイヴィング キャピタリズム	慶應義塾大学出 版部	中央	338.1/R12
有賀 裕二 (商 学 部) Akira Namatame, Taisei Kaizouji	編 The complex networks of economic interactions: essays in agent-based economics and econophysics (Lecture notes in economics and mathematical systems)	Springer	中央	330.1/L47
土方 直史 (名 誉 教 授) 粟本 昭/都築 忠七	編 The emergence of global citizenship: utopian ideas, co-operative movements and the third sector	Robert Owen Association of Japan	中央	321.07/E53
中央大学政策文化総合研究所 「地球市民社会の研究」プロジェクト	編 地球市民社会の研究 (中央大学政策文化総合研究所研究叢書 4)	中央大学出版部	中央	302.1/C66
中央大学人文科学研究所	編 ケルト口承文化の水脈 (中央大学人文科学研究所研究叢書 38)	中央大学出版部	開架	388.388/C66
中央大学人文科学研究所	編 ツェラーンを読むということ 詩集「誰でもない者の薔薇」研究と注釈 (中央大学人文科学研究所研究叢書 39)	中央大学出版部	開架	941/C66

②中央大学関係資料目録 2006.4 - 2006.5 (貴重書・準貴重書指定)

著書	書名	請求記号
高橋 健二 編	「沙翁舞台とその変遷:西洋劇場史研究」	777.3/U32
高橋 健二	「文学と文化」	940.4/Ta33
高橋 健二	「日本文化の没我的性格」	302.1/Ta33
高橋 健二	「美しい日本への道」 反省叢書	302.1/Ta33
石川 周行 杉村 楚人冠 (執筆あり)	朝日新聞満韓巡回船	290.9/A82
杉村 楚人冠	湖畔吟	914.6/Su39
杉村 廣太郎	へちまのかは	049/Su39
杉村 廣太郎	蟲のゐどころ	914.6/Su39
磯田 光一	殉教の美学	910.26/185
石原 八束	自筆色紙 「風の餘燼の落葉月夜となりけらし」	K911.3/I74

著書	書名	請求記号
創立55周年記念誌編集委員会 中央大学生生活協同組合出版局 編	あゆみ 組合員とともに 創立55周年記念誌	366.628/C66



**貴重書・準貴重書の利用について**

貴重書、準貴重書の閲覧は館長の許可を要するため事前の手续が必要です。  
詳しくは中央図書館2階カウンターにお問い合わせください。  
なお、大学院生は指導教員の推薦状が、学部学生は指導教員の同伴が必要となります。

# 図書館 INFORMATION

**(1)「中央大学図書館所蔵漢籍目録」刊行について**

当館で所蔵している漢籍の目録が発刊されました。漢籍特有の四部分類法を用いて分類してあります。付録として準漢籍(和刻本)、仏書(仏教書)、韓書(朝鮮本)を収めました。

**(2)7月企画展示実施**

本号で紹介された「三宅徳嘉教授旧蔵書」について、下記の日程で展示を行います。実際の資料を是非ご覧下さい。

**期間：7月10日(月)～7月22日(土)**

**場所：中央館2階ホール(展示ケース)**

**(3)NHK教育テレビ番組に資料提供**

当館所蔵の資料が下記の番組で使用されました。

**放送日：2006年5月17日(水)15時15分～30分**

**番組名：小学校理科6年 ふしぎ情報局(呼吸に関する内容)**

**使用資料**

**1) ジョン・メイヨー(イギリスの科学者)**

『Johannis Mayow Opera omnia medico-physica』(貴重書)

**2) ラボアジェ(フランスの化学者)**

『Oeuvres de Lavoisier / publiees par les soins de Son Excellence le Ministre de l'Instruction Publique et des Cultes』 出版 Paris : Impr. imperiale, 1862-1893

**(4)「2005年度蔵書統計結果」について**

2006年3月31日現在の統計は、以下のとおりです。図書館の蔵書数は、195万冊に達しました。

**1)図書(冊数)**

和書： 1,124,002 洋書： 827,419 合計： 1,951,421

**2)逐次刊行物(種類数)**

和書： 13,545 洋書： 10,277 合計： 23,822

**(5)「2006年■日・EUフレンドシップウィーク」イベント開催について**

中央図書館2階にある国際機関資料室により、5月9日(火)から19日(金)まで下記の展示が行われました。また、アンケート回答者の中から抽選でEUグッズが賞品として渡されました。

**展示テーマ**： - 「欧州に留学した中央大学の創設者たち」展 -

**場 所**： 多摩キャンパス 中央図書館 2階 2階展示スペース

中央大学の前身である「英吉利法律学校」の創設にかかわった増島六一郎らのイギリス留学に関連する資料や、英吉利法律学校の約120年前の教科書や講義録、増島のバリスター(法廷弁護士)かつらなどが展示されました。

**(6)7月の休日開館について**

**1)中央図書館**

7月9日(日)、16日(日)、23日(日)：10時～18時

**2)理工学部分館**

7月23日(日)・7月30日(日)：10時～18時

**編集後記**

今回の特集では、高橋治男先生に「三宅徳嘉教授旧蔵書」について執筆いただきました。また、取材に応じていただきました「旅の図書館」のスタッフの皆様にも厚くお礼申し上げます。夏休みの旅行計画などにぜひお役立てください。3月下旬より図書館システムが新しくなりました。これまでのシステムと違う点もあり、初めのうちは戸惑う事があるかもしれませんが、新たなサービスも展開しておりますので、積極的に学習活動にご活用ください。「My CUL」として新たに刊行されました本誌も、この7月で2周年を迎えることができました。今後もスタッフ一同皆様のお声を反映させ、誌面改善していくよう全力を尽くしていきたいと思います。